

子牛セリ10年ぶり安値

牛肉消費、続く不振 生産調整難しく

子牛の取引価格が一段と下落した。取引の多い黒毛和種の子牛は1年で16%値下がりし、10年ぶりの安値になった。生産調整が難しく、国産牛肉の相場が軟調でも出回る頭数を機動的に減らせない。採算が悪化した畜産農家も子牛の手当てを控えており、供給過剰に陥っている。子牛を育てる農家の廃業につながるおそれもある。

下落率、年16%に

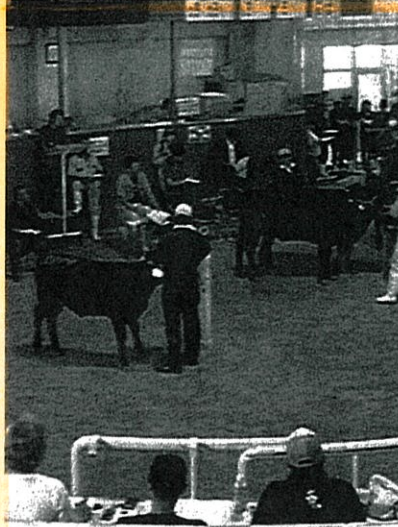
子牛は一般的に生後8〜10カ月育ててセリの市場に出荷する。畜産農家が購入した子牛は、さらに20カ月ほど肥育されて食肉向けに処理され

円。前年同月と比べて16%下落し、2013年6月以来の水準になった。

さんは生後10日ほどの子牛を相対取引で出荷した。子牛の価格は500円だった。キロ単価で見ると12〜13円。セリの市場に出される子牛とは規格が違い価格水準は異なるものの、値下がり鮮明だ。

割安な交雑種の子牛は1キログラムと43%の大幅な下落となった。9月下旬、北海道八雲町の畜産農家、片山伸雄

片山さんによると、22年の平均価格は1頭2万7000円。新型コロナウイルス禍前の19年(同8万3000円)に比べ67%安い。片山さんは今



母牛の機能維持のため、機動的に子牛の供給を絞り込むのは難しい

子牛は2023年も値下がりが続く



(出所)農畜産業振興機構

国内荷動き低迷

に悪かった。人手不足や資材価格の高騰などで建設需要は低迷している。プラス水準は、部品不

品、精密機械など限定的だった。10〜12月の見通しはマイナス6と改善を見込

上げによる所得の向上などにより、荷動きが戻るとの期待がある。一方で、円安や原油などの資源高

は毎月赤字。これが2年連続と廃業せざるを得ない」と話す。

子牛は需要に応じた機動的な供給の絞り込みが難しい。母牛の機能を維持するために、一定のペースで子牛を産ませる必要がある。

同機構によると、黒毛和種の場合で9月の取引頭数は約3万2000頭。前年同月比で6%の減少にとどまる。

一方で需要は低調だ。片山さんによると、最近

もおり「これまでにこのような状況はなかった」。供給過剰が解消せず、

価格の下落につながっている。背景には牛肉そのものの消費不振と、子牛を肥育して肉牛として売

る畜産農家の採算悪化がある。

牛肉は値下がりが続く。東京都中央卸売市場

4000〜25000円の安値圏で推移する。

100万円以上。コロナ禍前と比べ2割以上は上がっているという。

食肉卸、ニイチク(東京・江東)の植村光一郎取締役は「生活にかかるコストが上がり、消費者がぜいたくな食材を選ばなくなっている」と説明

攻で原料のトウモロコシ価格が一時高騰したほか、円安で輸入コストも増えた。「牛を育てるほど収益が悪くなってしま

一方、肥育コストは高止まりする。千葉県の肥育農家によると、子牛から出荷サイズ(約760キ)

子牛は畜産を支える重要な資源だ。子牛を育てる農家の廃業が進むと、日本の畜産業の屋台骨がゆらぎかねない。

食肉在庫17カ月連続増

8月末、増加率5.5%に縮小

農畜産業振興機構(東京・港)のまとめによると、8月末の食肉の推定国内在庫は前年同月比5.5%増の58万9808トだった。前年同月を上回るのは17カ月連続となった。増加率は前月から2.3%縮小した。

これまで増加が目立っていた牛肉の在庫は16万381トとなり、前年同月からほぼ横ばいだった。米国での現地価格が高騰しており、商社が輸入を抑制した。

鶏肉は10.4%増の16万5332ト。スーパー店頭での荷動きが鈍く、増加が目立った。豚肉は4.6%増の23万8736トだった。

輸入生鮮

豚肉

(大口需要家渡し、1キ、60〜90日手形、円、消費税抜)

LL	300	324	292
東L	290	315	282
京M	280	305	272
鶏MS	270	295	262
卵S	240	264	232
SS	186	210	178

LL	310	333	303
全たL	295	319	288
まM	285	309	278
農こMS	280	304	273
しS	255	278	248

▽特殊物

トラック運賃

▽混載貨物(大口需要家向け、100キ、円) 東京-大阪間

2,600-3,100

▽チャーター料金(積載重

ブロード205本(47キ幅、40単) 現物 N115

飼・肥料

(元卸、置き場渡し、現物、千円、左側東京、右側大阪)